



福島県立梁川高等学校

平成 30 年 3 月 23 日

校長通信

Team Yanagawa

vol. 20

■ 春分の田の涯にある雪の寺 (皆川盤水)

3月21日は春分の日。彼岸の中日にあわせて菩提寺の安洞院に墓参りをしてきました。霊園内では幼い子供さんの手を引いたお年寄りの姿や、線香の煙が棚引く中で先祖の墓に手を合わせる家族連れの様子があちらこちらで見られました。「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉がありますが、この日は朝から冷え込みが厳しく、正午を過ぎた頃から雪が降ってきました。曇天から静かに舞い降りる雪を眺めながら、梁川高校での生活が一年を経過しつつあることと、春は別れの季節であることをしみじみと感じました。年度末をもって異動される先生方には大変お世話になりました。なごり雪と共に皆さんの今後のご活躍を心から祈った一日でした。



■ 七年目の春を迎えて

東日本大震災から七年が経ちました。3月11日は決して忘れることができない日です。当時、私は県の教育委員会に勤務しており、震度6強の地震が福島市を襲った午後2時46分は西庁舎の九階で仕事をしていました。下から突き上げるような揺れがしばらく続いた後、建物が左右に激しく揺れ続けました。周囲のロッカーが次々に倒れる光景を目の前にながら、机にしがみつき投げ出されないよう座りむのがやっとでした。生まれて初めて死を覚悟しました。あれから月日が流れましたが、今でも夜中に激しい揺れに襲われる夢を見て飛び起きることがあります。私の心の奥深くで今も震災の記憶が眠っていて、時折目を覚ますのかもしれませんが。震災当時の梁川高校について振り返るため、生徒会誌「広瀬」のバックナンバーから教職員の記述を拾ってみます。

「東北大震災の直後であり、校舎が使えなくなった小学生と同じ校舎での生活が、スタート」(第33号)
「制服の採寸をしていた日、第一体育館は浜通りから避難して来た人々でごった返していました。入学式は第二体育館、時も所も関係なく余震は来るし、校舎の一部を小学校に貸して、お互い窮屈さを我慢しながら授業を受け…」(第33号)

「誰もが忘れることのできない東日本大震災が発生。学校も避難所となり、(中略)入学式も格技場。あるはずのオリエンテーションもできない。すべてが前例のない状況」(第33号)

「東日本大震災の四、五日後のことだったと思います。私は勤務を終え、駐車場に向かって歩いた夕方のことです。突然見知らぬ男性が近づいてきました。『やっとここにたどり着いた。どうにかここにいさせてもらえないか。南相馬市から命からがら逃げてきたんだ』と言うのです。本校体育館は避難所になっていて、既に多くの方が体育館にいらした状況でした。私はその男性の表情、声、姿が今も忘れられません。』(第31号)

これらを読んでいると震災直後の混乱がひしひしと感じられます。時は流れ本校の教育活動が平常に戻って久しいですが、当時の生徒諸君と先生方の苦労や、いまだに困難な状況にある県民の皆さんに思いを馳せ、あらためて平穏な日常に感謝したいと思います。また、本県の復興のさらなる進展を願いながら、希望に満ちて入学する新入生を迎え、気持ちをあらたに新年度の学校運営にあたって参ります。

3 学期 終業式

3月20日、3学期終業式が行われました。私からはこの1年、全体的に落ち着いた学校生活の中で、生徒達が真面目に学習、学校行事、部活動等に取り組んだことを評価しました。次に生徒一人ひとりが1年間を総括し、成長した点はさらに伸ばし、反省点は次年度に克服を目指すことを求めました。また、あらためて人生の目標を明確にし、高校生活における取り組みを見直すように述べました。保護者の皆様には、年度末と年度初めの春休みを利用して、子供さんの高校生活を共に振り返り、新しい年度に向けて気持ちを新たにしようご助言いただければ幸いです。



第70回卒業証書授与式が行われました

3月1日、多数の来賓の方々と保護者の皆様をお迎えし卒業証書授与式が行われました。卒業生を代表して菅野綾音さんに卒業証書を授与したあと、式辞において私からは、予測困難な時代に自分の能力を能動的に発揮し、生きる喜びを確信する手がかかりとして、本校の校訓である「知性」「誠実」「責任」を大切にし人生を歩んで欲しいと述べました。在校生代表の原瑚堂君の送辞では、自分達を導いてくれた先輩への感謝の気持ちが述べられました。また、卒業生の寺島有紗さんの答辞では、自分達を支えてくれた家族や先生方への感謝の気持ちを忘れず、これから夢の実現に向かって歩み始める決意が述べられました。卒業生52名が幸福で充実した人生を送ることを心から願っています。



表彰式、同窓会入会式が行われました

2月28日、表彰式と同窓会入会式が行われました。表彰式では皆勤賞、精勤賞、1ヵ年皆勤賞、成績優秀賞、生徒会功労賞、生徒会部活動功労賞、生徒会専門委員会功労賞、県高野連優秀部員賞、全国高校家庭クラブ連盟表彰、全国高校陸上競技部2級合格、同窓会長賞について、それぞれ表彰状が手渡されました。また、次に行われた同窓会入会式では、同窓会会長挨拶と校長挨拶のあと、クラス幹事の委嘱があり、生徒を代表して篠木幸汰君が霜山幸八会長から委嘱状を受領しました。続いて伊勢祐汰君が新入会員代表の挨拶を、加藤奈々さんが卒業祝品の受領を行いました。



県北ロードレース大会が行われました



3月17日、信夫が丘陸上競技場を会場に吾妻杯県北ロードレース大会が行われ、本校陸上競技部から2名が参加しました。この大会は県北陸上競技協会の創立を記念して行われ、今年で62回を数えます。コースは競技場をスタートし、サイクリングロードを走り競技場に戻るもので、選手達は早春の阿武隈川の自然の中を力走しました。高校男子の部は10キロで争われ、2年生の渡辺泰幸君が33分14秒で7位に入りました。この記録は自己ベストを56秒も短縮するものでした。

池坊記念花展に華道部の作品が展示されました

3月3・4日の両日、コラッセふくしまにおいて池坊福島支部創立75周年記念花展が行われました。会場1階アトリウムには学校華道の展示スペースが設けられ、本校の華道部の作品も展示されました。可愛らしい靴の器に色とりどりの花々を生けた作品は、来場者の目を楽しませていました。3階メイン会場では立花、生花、自由花など様々な形式の作品が展示されており、長い年月をかけて磨かれた美の世界を見ることができました。また、ひととき素晴らしかったのは、生徒がお世話になっている小野洋子先生の作品で、掛け軸と生け花が一体となり、見る者を幽玄の世界に誘うようでした。



掲示板

3月18日、川俣町中央公民館において川俣高校主催の「ジョイントコンサートin川俣」が行われ、本校音楽部が参加しました。川俣高校と福島東稜高校の音楽部、社会人合唱団等も参加してのコンサートは、和やかな雰囲気の中で行われ、素晴らしい歌声が会場に響き渡っていました。

1学年総合的な学習の時間

3月6日、1年生の総合学習の時間は「働き方&収入仮想体験ワークショップ」に取り組みました。生徒達はグループごとに、ゲームを通してこれから必要となるお金や、フリーターの危険性について学びました。

